



古今和歌集

後 蚊田卷生

全



春歌上

ふるとしふねなるたちなる日さめり

年のうちふもるいそよりいとせとこぞとやいそむさしとやいそ

左京大夫

喜たれなる日よあけ

とやむぢてむさびいぬのこゝろをさきたつふの風やとくらん

紀貫之

歌一しうげ

喜かすこたてるやいづこみずのやうにけし山よさるいそをけり

土佐守

二條のきささの。喜のきささの歌

吾のうちふもるいそふけいそいそひすのこゝろをぬいそやとくらん

歌一しうげ

うめがえまきおろしひす喜かけそけいそいそいそいそいそいそ

後白河

喜のきささの。喜のきささの歌

喜たてがえとらふいそむさし喜のかけり枝まうらひすのふく

喜徳法師

春日野のつらつらやちの袖あつて人のぬくむ

歌一しうべ

ちの袖あつてかすこのあちのぬくむとすこ山ざせよとみづぶみれ

在原
字千代

とみづぶみれぬくむとみづぶみれぬくむとみづぶみれぬくむ

歌一しうべ

つらつらやちの袖あつて人のぬくむとすこ山ざせよとみづぶみれ

在原
字千代

とみづぶみれぬくむとみづぶみれぬくむとみづぶみれぬくむ

歌一しうべ

ちの袖あつてかすこのあちのぬくむとすこ山ざせよとみづぶみれ

在原
字千代

とみづぶみれぬくむとみづぶみれぬくむとみづぶみれぬくむ

歌一しうべ

ちの袖あつてかすこのあちのぬくむとすこ山ざせよとみづぶみれ

在原
字千代

ちの袖あつてかすこのあちのぬくむとすこ山ざせよとみづぶみれ
ぬくむとみづぶみれぬくむとみづぶみれぬくむとみづぶみれぬくむ

歌一しうべ

ちの袖あつてかすこのあちのぬくむとすこ山ざせよとみづぶみれ

在原
字千代

とみづぶみれぬくむとみづぶみれぬくむとみづぶみれぬくむ

歌一しうべ

ちの袖あつてかすこのあちのぬくむとすこ山ざせよとみづぶみれ

在原
字千代

くろぶがまめもよみたる

うたのむよみもさくくろぶがまめもよみたる

有林よ梅もよみたる

月よみのれもよみたる

さるのよみ梅のまよもよみたる

まのよみやこもあやほし梅をいつこそえねのやいかくは

まのせよまよづるおふやどりける人のまよもよみたる

やとてでやどては後よみのまよもよみたる

ささるふたつむやどりのあるとしいし出でてはるるまよもよみたる

またてりたるうたのむよもよみたる

人のいざんもあはれなるさるのよみ梅のまよもよみたる

おのやどりおふやどりのまよもよみたる

まありあがら川とよもよみたる

そしとてむのなみとあるおのちをかるまよもよみたる

おのちをかるまよもよみたる

くるとあくとたれぬぬれぬ梅をいつの人もよみたる

寛平は時きさいの文の歌念のうらこ

梅がよと袖まよ流してとめていまのすもよもよみたる

ちりちりあはれぬぬれぬ梅をいつの人もよみたる

たいしつび

そねぬもよもよみたる

人のあまうあたりたるさるのよみ梅のまよもよみたる

さるのよみ梅のまよもよみたる

おのちをかるまよもよみたる

歌しつび

おたりともよもよみたる

又のほとりの人もよみたる

おのちをかるまよもよみたる

おのちをかるまよもよみたる

つらき

梅ね

つらき

いせ

美之

美人

そせい

しん

しん

しん

しん

わりこめてのこけなるあひだよをれさくら此

ふたりの

ちりごめてまのひらさきぬあまのちりごめて

ちりごめ

東風の雅皮まをさくらこのまのこらもあま

まのこら

ちりてあまのこらもあま

まのこら

枝よりあまのこらもあま

まのこら

橋のまのこらもあま

まのこら

あまのこらもあま

まのこら

橋のこらもあま

まのこら

さくらこのまのこらもあま

まのこら

さくらこのまのこらもあま

まのこら

久このまのこらもあま

まのこら

東風のまのこらもあま

まのこら

さくらこのまのこらもあま

まのこら

はくらのまのこらもあま

まのこら

あまのまのこらもあま

まのこら

あまのまのこらもあま

まのこら

あまのまのこらもあま

まのこら

あまのまのこらもあま

まのこら

あまのまのこらもあま

まのこら

あまのまのこらもあま

まのこら

あまのまのこらもあま

まのこら

あまのまのこらもあま

まのこら

あまのまのこらもあま

まのこら

あまのまのこらもあま

まのこら

あまのまのこらもあま

まのこら

あまのまのこらもあま

まのこら

あまのまのこらもあま

まのこら

あつこくをわが泪をせよちるあてなきはなをさそららたなくん
とせい

さきのかむのよまてをかくとよめな
いほね

あまのついでにさるなゆらむふらついでにさるなゆらむ
はし

ちるをさるをなうらうらむむせ中にさるがまともにあむむめ
十段
十町

花のまじりついでにさるなゆらむふらついでにさるなゆらむ
にわのやすむほのまよ。歌合せんしけ
とせい

あつこくをわが泪をせよちるあてなきはなをさそららたなくん
つせ

あまのついでにさるなゆらむふらついでにさるなゆらむ
つせ

あまのついでにさるなゆらむふらついでにさるなゆらむ
つせ

あまのついでにさるなゆらむふらついでにさるなゆらむ
つせ

あまのついでにさるなゆらむふらついでにさるなゆらむ
つせ

あまのついでにさるなゆらむふらついでにさるなゆらむ
つせ

あまのついでにさるなゆらむふらついでにさるなゆらむ
つせ

あまのついでにさるなゆらむふらついでにさるなゆらむ
つせ

あまのついでにさるなゆらむふらついでにさるなゆらむ
つせ

よー遊がそまきーの山がまきく山まきくの歌なごうりひまう

歌一ひ

かまひかくおその山がまきく山まきくの歌なごうりひまう
けいおいお人のいんごたあまの山まきくの歌なごうりひまう

まきのうーいんごたあま

かまひかくおその山がまきく山まきくの歌なごうりひまう
まきのうーいんごたあま

棒まきくたあまのうー月の山まきくの歌なごうりひまう

やまひまの山まきくの歌なごうりひまう
やまひまの山まきくの歌なごうりひまう

やまひまの山まきくの歌なごうりひまう
やまひまの山まきくの歌なごうりひまう

まきのうーいんごたあま
まきのうーいんごたあま

まきのうーいんごたあま
まきのうーいんごたあま

寛平は射まきのうーいんごたあま

こまたまひあけやまの山まきくの歌なごうりひまう

やまひまの山まきくの歌なごうりひまう
やまひまの山まきくの歌なごうりひまう

やまひまの山まきくの歌なごうりひまう
やまひまの山まきくの歌なごうりひまう

やまひまの山まきくの歌なごうりひまう
やまひまの山まきくの歌なごうりひまう

やまひまの山まきくの歌なごうりひまう
やまひまの山まきくの歌なごうりひまう

夏歌

歌一ひ

よまひまの山まきくの歌なごうりひまう
よまひまの山まきくの歌なごうりひまう

くまのこをわけてぬる友のよをわすれや山ほらき
たにぬ

秋歌上

友をまに恋し人や入らむと云ふうらむくほらき
たにぬ

このあつちをさかしてわらわはなをさかす
たにぬ

秋歌上

夕月の光をともらばわらわはなをさかす
たにぬ

はなをひまをともるこころのあつちをさかす
たにぬ

まのこころをともるこころのあつちをさかす
たにぬ

秋歌上

月のおのれをともるこころのあつちをさかす
たにぬ

友のよをまに恋し人や入らむと云ふうらむく
たにぬ

このあつちをさかしてわらわはなをさかす
たにぬ

夕月の光をともらばわらわはなをさかす
たにぬ

秋歌上

友をまに恋し人や入らむと云ふうらむく
たにぬ

秋歌上

むらりぬるといふをよあはねども秋くるまじいあけあけりけり

よこね

かみさげのつがよふ人あつまりて秋のまじもよふよこ

よこね

かみさげのつがよふ人あつまりて秋のまじもよふよこ

よこね

あふもふをねうちかなうとて唐のなをさしんあつあつは月

よこね

さよ中こねのなねはかまがねをさこめるまは月とてさるる

よこね

あまの月をさよふのこはかなうとて唐のなをさしんあつあつは月

よこね

久うこの月のうらも秋のあやもみぢは秋をよめてさるる

よこね

月とよあたる

よこね

人のあこよはうわつをけつとてさるる

よこね

さるる

よこね

あまの秋のあつとてさるる

よこね

あまの秋のあつとてさるる

よこね

あまの秋のあつとてさるる

よこね

あまの秋のあつとてさるる

よこね

まろりてをよめる

清人よあしぬりのうらまの鷹のほそねくこゑのやぶとりまらね

えき

先真のここの家のお命のうら

秋の勢ふまろ鷹のほそねくこゑのやぶとりまらね

のり

歌一しは

よき人

まがねといふかかせぬのあつたまらねく風はかまのまらり
いとまやも鳴ねるかまらあつたまらねのいろとまらねく
まらねあつたまらねといふまらねかまのいろとまらねく
ねをまらねく衣かまらねくまらねのまらねくまらねく
まらねのまらねくまらねのまらねくまらねのまらねく

寛平内時まらねのまらねのまらねのまらね

秋らせよこゑをまらねくまらねくまらねくまらねく

まらね

かまのまらねくまらねくまらねく

まらねくまらねくまらねくまらねくまらねく

まらね

まらねのまらねのまらねのまらねのまらね

山ざとい秋こそまらねくまらねくまらねくまらねく
まらねくまらねくまらねくまらねくまらねく

まらね

歌一しは

まらね

秋をまらねくまらねくまらねくまらねく
まらねくまらねくまらねくまらねく

秋をまらねくまらねくまらねくまらねく

まらね

まらねくまらねくまらねくまらねく

まらね

まらねくまらねくまらねくまらねく

まらね

歌一しは

秋をまらねくまらねくまらねくまらねく

まらね

秋をまらねくまらねくまらねくまらねく

是れ人のここのたがのふかふかよよ

あふんきとねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

ふちをりまくる秋に波とよよ

あふんきとねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

ふちをりまくる秋に波とよよ

あふんきとねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

歌

あふんきとねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

寛平は時きさひのまのふかふかのう

あふんきとねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

あふんきとねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

歌

あふんきとねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

あふんきとねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

あふんきとねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

仁和のころとみこよわきしはしる時ふらのに波流せん

とてねをりまくる秋に波とよよ

へまらる時とねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

このははいてよよまみくたてすはてしる

あふんきとねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

秋歌下

是れ人のここのたがのふかふかのう

あふんきとねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

あふんきとねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

秋のふかふかのう

あふんきとねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

歌

あふんきとねがかけしふちをりまくる秋に波とよよ

とよよ

はし

とよよ

とよよ

とよよ

あふんき

とよよ

とよよ

とよよ

とよよ

とよよ

とよよ

とよよ

とよよ

いろはの秋のきくさびしきせよふさびしき時をかくことと
にわちおきくのみをかくしき時をかくこととたてまつりて
ちかせしれはまをたてまつりて

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
人のあつちをかくさびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
さや山のさびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
たつとほのみちをかくさびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
五田川のなちをかくさびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
又いあちの川のみちをかく

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
さびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
あさひのさびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
ふもつけさびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
林の月やまさびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
吹りせのいろはさびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
五田のたておのねさびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
うまねんの木のりげさびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
まじんのまさびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
二條の后のまさびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
川はのみちさびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
あさひのさびしきせよふさびしき時をかくことと

秋をかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと
ちをかくし時をかくさびしきせよふさびしき時をかくことと

おきさざのこのおのふの合のうい

つがまのうかまおきさざのこのおのちのちのうとまがま

神なびのこのむの山と林ゆなみおきたまのうとまがま

お山よのみぢとくむとてまうれとけるとおまよおる

えん人もおなくておねるかくやまののみぢのうのあまなり

林のうと

互田娘たむと神のおまびこと林のこのおねさやちらう

小野といふところよすく清なる時のみぢとてよおる

林のやまのみぢとねさとま向まのまむおさくは旅こちする

神なび山とすざとたつこおとけりける時はおま

のみがまらるとよおる

神なびの山とまがまゆく林をまを互田はなぬさいたむく

寛平は時おさいのあまのふ合のうと

あまは林のこのおのうたるとあまのあがせらるる

たつと海のやまらまよおる

ゆらちまのあがせらるる互田はなぬの林とたまらま

あまの山こえまよおる

山がまは風のけたるあがみあが神あおぬゆちたまを

他のやまらまよおる

風ふらむつるのみぢとあまよちらぬかけさくまを

言るは風のま風の子よ川とくむとする人の紅紫

のちまのゆまをむらうたてるとよまめたま

ひまをれは清ううまつらまは

あまのまらまといふむらみぢたのあまのまらま

あまのまらまといふむらみぢたのあまのまらま

山田と林のうまらまらまらまらまらまらまらま

あまのまらまといふむらみぢたのあまのまらま

あまのまらまといふむらみぢたのあまのまらま

あまのまらまといふむらみぢたのあまのまらま

あまのまらまといふむらみぢたのあまのまらま

あまのまらまといふむらみぢたのあまのまらま

おき

たね

つみ

かみ

かみ

はら

はら

ふり

やぶ

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

かきる田よおちるむつちみちよ出ぬよとけさうよあきとてぬが
小山よ傍に庭照とたけがままわれなるよよ光る

もみぢをい神まこき入くもく出まん林かきりとらん人のあ

実平内時ふるさ歌たてま法事とおんせられをい

立田何のみちをあがるといふあさまきそそのれ

まじあらとよめまなる

海やまよりあちくさあの色きてを林のりまるとかひひるねる

林のをつるんを立田川は思ひやめてよめる

自毎よのちをあがすたつこいさそとや林のとまうなるん

あが月の法こももの日大井よてよ光る

夕月歌とくらの山よななく一はく名のうちまや林のくるむ

かちつここの日のよ光る

道あつたつちとたむむのちもとあきとたむけて林のいさう

夕月歌

かき
りせ

法
事

法
事

山六帖
夕月歌
夕月歌とくらの山よななく一はく名のうちまや林のくるむ

かちつここの日のよ光る

道あつたつちとたむむのちもとあきとたむけて林のいさう

夕月歌

夕月歌とくらの山よななく一はく名のうちまや林のくるむ

かちつここの日のよ光る

道あつたつちとたむむのちもとあきとたむけて林のいさう

夕月歌とくらの山よななく一はく名のうちまや林のくるむ

かちつここの日のよ光る

道あつたつちとたむむのちもとあきとたむけて林のいさう

夕月歌とくらの山よななく一はく名のうちまや林のくるむ

かちつここの日のよ光る

道あつたつちとたむむのちもとあきとたむけて林のいさう

夕
月
歌

志賀の山おえよとよめる

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

あまむし

のり

みよし聖の山おえよおははのりしよふるさくさむくありまゝさく

寛平は時きさいの史の歌人のうい

うらちりくふうくさの志賀の志賀の松山こすうとぞ見える

おきせ

こよし聖の山おえよおははのりしよふるさくさむくありまゝさく

たそ

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

おのふるをりてよめる

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

つね

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

ふやよ

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

つがき

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

おれ

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

のり

歌一しげ

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

よらん

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

しん

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

う

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

小

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

管

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

かき

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

のり

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

のり

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

のり

あゝおのしとちもそらすくさくけいもやよもあまむしとことそけ

のり

歌一〇七

まづらひいさぎの山のふもとにまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

すがる形く林の秋る木あさたちてたじむく人をいつとらまらん

かきりたるまきかきのよとまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

小指のちよるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

たちねのちよるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

すけまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

りまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

かまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

人のうまのまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

完

くはつひのついでにたつとてよのやまのまはるはつと女のよまゝと
しつせいのなま

よまゝ
しつせいのなま

えぞをぬくちのよま命あはれにけりけりけりけりけりけりけり
あひまをそとけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
ねくもしてよまなま

よま
あひま

よまおよまかよふんあつちをねをけりけりけりけりけりけりけり
しめのおつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

よま
あひま

よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

よま
あひま

よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

よま
あひま

よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

よま
あひま

よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

よま
あひま

よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

よま
あひま

よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

よま
あひま

よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

よま
あひま

よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

よま
あひま

よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

よま
あひま

よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまおのつちよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

よま
あひま

歌一〇〇次

ありすもくつし袖の志はむらさきかへりてはみそぞれく
かきりぬくちりおをさきにちねる袖のうかへあまの御心をよ
うやくしおとをふれなむさるるさかやねまきせき君とめん
志ひてあく人とめむさくもいづしとたてまつりてちせ
志がの山こえまてふ井のめとまをわいひなる人の
はらうせりるをわらふよめたる

ちこ人
しんば

むよぶの志づくよごころ山のぬめありてと人よとくれぬるる能
及よあまのなる人の車に物をいひつきてふるるはまてよある
志このおびのこわいかにてはらうとめめくつてとあんとぞかめよ

羈旅歌

ゆらこころとて月をこてよめたる

あまのちしおをさけし世をかすがふるころさの山いでし月も
すのちのむらりしあけらまらるるゆるしよあまの御心をよ

あまの
仲麻呂

とも
のり

つらむしたるるよあまの御心をよ
こさうらるるごころのこよより又つらむさるるいふけるまた
ひてまうてきねんとていでたまはるよめいさうといふは
の海ごよてかめくはの人うまのをねむけりたりよま
わうて月のいとがかりしとさしまたまをさるる
よあるとねんこのいをほらるる

かまのあまふがされたる時は船よりのいでたつとて
なるる人のめとよはらうとて

あまの
仲麻呂

歌一〇〇次

みやこいでらまの志はむらさきかへりてはみそぞれく
ほのびとあうしけうらのあまの御心をよ
けねある人のめとよはらうとて
あつまのくらしをさるる人むらうふらういさあひていさ

かひのくまはよりせらる時、たゞよふある

あまのつねにむくもつねにむくひつ、あまのつねにむくもつねにむくひつね

たぢまのくまの湯、まじりてせらるる時、たゞよふある

やいふはよとまりて、たゞよふある時、たゞよふある

よのふあまのくま、たゞよふある時、たゞよふある

たゞよふある時、たゞよふある時、たゞよふある時、たゞよふある時

あまのつねにむくもつねにむくひつ、あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ、あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ、あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ、あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ、あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ、あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ、あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ、あまのつねにむくもつねにむくひつ

十 冬

物名

うぐいす

あまのつねにむくもつねにむくひつ、あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ、あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ、あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ、あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ

あまのつねにむくもつねにむくひつ、あまのつねにむくもつねにむくひつ

うよせせさく

かづげとも流のちうよはくく一洋かかやうくくくくくくくくくく

くくく

すめめめ

今くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

かめめめ

あうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

やう

たちをね

あー川の山たちをふきけりまのやとくくくくくくくくくく

かげ

とらとよの本

みくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

きめり

やまがさの本

林の本ね今やまがさのきくくくくくくくくくくくく

はくく

あふひ

かくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくく

くくく

ちうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くく

さくく

それくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くく

くくく

あうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

のり

物とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくく

くくく

あうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くく

くくく

あうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くく

くくく

ふもたしんくわんがわんとのまむとあしをふひだうつりひまらる

まうたんのまか

まかやらのまかまかまかまかまかまかまかまかまかまかまか

まかまか

ありとてたのむだかしかうつさのまをまかまかまかまかまか

けまこー

うちほまみまかまかまかまかまかまかまかまかまかまか

二條底。まかまかのまかまかまかまかまかまかまかまか

まかまかまかまかまかまかまかまかまかまか

まのまままかまかまかまかまかまかまかまかまかまか

まのまかまか

山たかまかまかまかまかまかまかまかまかまかまか

やま

ふもたしんくわんがわんとのまむとあしをふひだうつりひまらる

うつさのまかまかまかまかまかまかまかまかまかまか

かまかまか

ぬままのまかまかまかまかまかまかまかまかまかまか

まかまか

まかまかまかまかまかまかまかまかまかまか

まかまか

命とてまかまかまかまかまかまかまかまかまかまか

まかまか

まかまかまかまかまかまかまかまかまかまか

まかまか

まかまかまかまかまかまかまかまかまかまか

まかまか

まかまかまかまかまかまかまかまかまかまか

まかまか まかまか まかまか まかまか まかまか まかまか まかまか まかまか

ちり 花つ先 くらみ

あぢきおしなごさつめどうきこはわいんるみどがまてぬ物くら

去来

からまといひはまてききのまる日よせん。

波のむけさかまとおすゆいまのまらやあつたよるるむ

いりりさき

かぢよあつる浪のまづつとまきまをたつてつたれたさるむいんま

かのみやがた

かのみやがた

うたまのうらうらりやなまらんかこのうげよあまらるるま

よまがた

あしりのあまらねばまらまらいつよまよこつたまらるるま

うこの

うこの

うこの

林のれど月のうらのみやいあるまらるとまらとあまらるるま

百和香

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

すこがた

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

かきかた

あがれいづるかたにえぬたまらまらまらまらまらまらまら

ちりまき

のちまきあつれちりまらたつあまらまらまらまらまらまら

まをけまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

あまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

信の

たね

りやの

まげ

まら

源

みね

恋歌一

歌一

万々思ひをくやさ内のおやめ草花やめとあらぬ恋もするや
 春のよきこのあつち路よいかまきて思ひよおはげしぬ
 よし野に海を浪言くはあのもやくど人とも思ひを先
 志る浪のおとふさうたにゆく世風どなるの志る恋ありら
 かを山根とよきつあやさうの関のあまの恋とふるさ
 ちうへをあまれど思はずとも人よんをちまうつら皮
 草中かくこそあられ吹かせの先よぬ人もひりかきり
 右近のうすむのむを里の目むらひたてしりさる
 車の下すがれおと女のはのふのうよ見えまれば
 よみくはりをしん

よし人
 素性
 愛之
 橋原
 元方
 法
 由き
 下
 下

泪はまろくちかろくうまはれよの愛もさぐりたんくびを有る
 恋はまきびを牙のかけとををにりりたりとして人よをいぬのゆゑ
 かなる大まわらぬ日か牙のさぞもかく涙の川はうまそめゆむ
 うぐまびのながとある牙のさびしさいたがきて下いぬのこり
 をやまかせよまめかひをいぬ袖のあまの涙よりあまの物を
 かきぐよまろくぬま藤の流のうまみづれてのまを恋後ををん
 わしぐあまのうまのあまの涙のあまのや人をかくこひんとを
 人志まぬ思ひと涙のうまのあまのうまのうまのうまのうまの
 とぶるのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 わし板のうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 恋板のうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 うまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 折日びよまをむこぬ山たのまぬぬ山いあむとを思ふ
 んくうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの

よまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 まろくく清る水の流りたろく恋うこころをこれよとけせん
 おけたたてを涙のうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 友生のうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 夕さけいといひうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 いつくとも恋うまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 林の田のうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 われの田のうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 人めゆるまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 おまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 かくゆのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 恋歌二
 歌あまのうま

はまふる 涙は袖のたほちなをぬきかへてらよることそいさあ

歌一七

うつしはさもこをあらめ 愛よさ人めをゆるとえんがけけし
かきるをぬき思ひのすにようもこむ 愛あせさよ人のこがたに
あはれまらわしもやをたすかんとまうつよひもめつんさとのあは
けりよと人あづみおたらをれをわのそななぐうえこそけりて
たきのをのそをきんを何しと人あづみのせもこそむむらぎ
寛平十四時 紅のつらよひのてりかきぬのゑよりよひそこひいしぬゆも

歌一七

あまの池はまむもやとそそのはきとぬくたとまなやと人まあなる
はのそをわかく物おのよをさむと志こいつくともまよいでたや
山一形のおちとまのやまのかまよた人のをさむくまよひめやと
このらよあまの人あまのらぬめれとあんとけ

あまの池はまむもやとそそのはきとぬくたとまなやと人まあなる
はのそをわかく物おのよをさむと志こいつくともまよいでたや
山一形のおちとまのやまのかまよた人のをさむくまよひめやと
このらよあまの人あまのらぬめれとあんとけ

池はまむも名とそそののあをさみかつるこはれおらじせまら
あふここのまのそをらもをのたつをよ 誓のいのたまのこ
むらむのたもあふここのまのそをらもをのたつをよ 誓のいのたまのこ
あふここのまのそをらもをのたつをよ 誓のいのたまのこ
あふここのまのそをらもをのたつをよ 誓のいのたまのこ

恋歌四

なまの
まよき

はまち

よこ人

と
ゆり

こはれ

よこ人

やが
平夏文
ゆり

よこ人
貞文
はし

い
せ

だよ、やけたるものもに又とさうして、流りをとりなる。

こまぢか
おね

時そこかきぬく小聲のむさぢまのたのむひだたえびのえんは
物思ひなるあら。ものしまりまけるさうま、聖火のゆえ

なまるとつんぐ、よめる。

まが杖の聖とつが身と思ひををりえてとまをとまことま物と

いせ

歌一々

水のあまの清くうたふといひながら、ながまて、たまためあるうた
と物きぬあまのひあまをくわした流しはまあ身をたえぬと思を
よ、聖火のやんこを流しうめをやくいひて、まことまま物と
世の中の人のあまのたぬを免のうつちひやをたをまどあは流
あまのこをうてあまの流をたさうかうつらまことまをくわま
ままをてう流しあまの世の中の人あまのたをまをまをける
まののみやまをうてひまことまをくわん人のあまのまことまを
かひまことまをくわん人のあまのまをくわすちりぬるまをくわ
まをくわん人のあまのまをくわすちりぬるまをくわ

まのり
まのり
まのり
まのり
まのり
まのり
まのり
まのり
まのり
まのり

ていして、あまの清くうたふといひながら、ながまて、たまためあるうた

まのり

寛平治時、由屏風、あかせねひる時、よみくかきなる

まのり

歌一々

林の田のいねてまことまかけまなまをりとう人のかるく
まのりあまの清くうたふといひながら、ながまて、たまためあるうた
あまのこをうてあまの流をたさうかうつらまことまをくわま
まをてう流しあまの世の中の人あまのたをまをまをける
まののみやまをうてひまことまをくわん人のあまのまことまを
かひまことまをくわん人のあまのまをくわすちりぬるまをくわ
まをくわん人のあまのまをくわすちりぬるまをくわ

まのり
まのり
まのり
まのり
まのり
まのり
まのり
まのり
まのり
まのり

影一々

人しきびたえぬきりたるひつともあきかねたとたよをまき物せ
はせ

あふこのよのつたえぬる時まは人のきしきあふまはまはま
おきせ
はせ

あふこのよのつたえぬる時まは人のきしきあふまはまはま
おきせ
はせ

あふこのよのつたえぬる時まは人のきしきあふまはまはま
おきせ
はせ

あふこのよのつたえぬる時まは人のきしきあふまはまはま
おきせ
はせ

又まゝこゝろをたふさふ人まゝまゝ

あふこのよのつたえぬる時まは人のきしきあふまはまはま
おきせ
はせ

哀傷歌

いひうらみの牙まらうまらうとれよみらる

あふこのよのつたえぬる時まは人のきしきあふまはまはま
おきせ
はせ

あふこのよのつたえぬる時まは人のきしきあふまはまはま
おきせ
はせ

あふこのよのつたえぬる時まは人のきしきあふまはまはま
おきせ
はせ

たふとよけはなよみて。まよひくちまらまて。母よこせ

まけ

雑歌上

歌一〇八

あうへはあはれどかたなるあまのほとろろ船のうのいしけり
思ふともちもとおもる歌のうゝ縁たましくもきぬのまをあら
うけしをたもつまむかゝる縁あこころまたたておいてまの
かきまきまかぬまこころもいしけりぬのまをあらなる
あゝ人のいさくばあひさねのわいさうちあゝのあゝ
むしあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝ
あゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝ
としてよみてやまをさる

あゝ

大納言ふぢりつのははははの物後。宰相より申納言
よなりなるともよ。そはね。うけまねのあやをかへる
としてよめたる

そはねのあ
はまきこ

いらねしやとるむむのしよりふきんふとれていぬの
いそのうみのたにまのうやはつとせいでいそのうみ
はまあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝ
よらこびいひつらをしてよみてつらまゝなる

うら
まのち

目のむらやがむらねいそのみふまのむしあゝのむしあゝ
二條后のむしあゝ。車夫のむしあゝのむしあゝのむしあゝ
まゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝ

ま
のち

かみいやくの山はらふのむしあゝのむしあゝのむしあゝ
ふすねのむしあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝ
天は風をまのむしあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝ
ふすねのあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝのむしあゝ

ふすねの
むしあゝ

おきつ流たりりの流のたまおのあまことそ名をかちひりりり

流

たままをまよりけりるる時よれん

あまをりこちゆるま産とかまを流の聖とをまの取ねべとある

あひま産をける人の住りまよりでりるまよみてきりる

住よとわすれはぐともかかおまぬ人よまき茶あまといふ物

たままをまよりけりるる時たまの産をまておまあひてよめる

あまよりたまの産をまあけを名まのかく神物まをみるる

法皇おしほまをまよりたままの目お流海まこてま

とつよとを影まてよませおひる

あつたつたたるは産をまて流まよせて流ぬ流うとをま

中務のまこれおの世まおを流くまてちりりまめくおを

ひなる目法皇おらんたままよりけりるるまよりけりるる

おまをまよりけりるるまよりけりるるまよりけりるる

あまのうまよりけりるる流の産をまよりけりるる

いせ

かつたまよりけりるる

みやまを産まかへるかまの流のたまけて流をひきける

布引のたままよりけりるる

あまちりひ流のたままよりけりるる時のおまか

布引のたままよりけりるるおまよりけりるる

ねまをまよりけりるるおまよりけりるる

よ一聖の流をまよりけりるる

たがたあまよりけりるる布を産まよてて流をまよりけりるる

歌

まよ流の産をまよりけりるるたまよりけりるる

流つたまよりけりるる

たちねまを産まよ一人ままよりけりるる

舞雀流のまこれおのひまの流をらんせんまよりけりるる

あまの目おまよりけりるる

ませり

り平

きり

承均

法作

存せ

千うこよませぬひなむらよよあはは

ねりあきてさきさる布をたなをさるまらやなりまかきまじ

むえの山ある。おともの跡をひきよきる

落たまり跡のさうみははのまをまけしむらさきまをまはし

れたり下跡をよめは

風ふけとともさるまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

田むらの内時ふ女たうのさきさるひまらぬ屏風のまを

らむらなるまら跡おちりけりさるまらぬまらぬまらぬ

を歌まらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

思ひせくんのうちれ跡をさるまらぬまらぬまらぬまらぬ

屏風のまをさるまらぬまらぬまらぬまらぬ

喉をさる時より後らうちまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

屏風のまをさるまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

かまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

たなまの
まらぬ

たね

まらぬ

まらぬ
のまらぬ

つまらぬ

まらぬ
まらぬ

雑歌下

歌一ひ

世の中いなりつるまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

いく世もあじいりまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

馬のつらまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

まらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

かひのうみりけりまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

はらまらぬまらぬ

まらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

まらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

まらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

まらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

まらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

まらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

まらぬ

たね

まらぬ

小町

まらぬ

まゝておぼしき山よきいさぎにむらゝかゝるるまゝのいづれも
世の中はしんかたしんかたはなれんはよしとて物にあはれいさうら
よはかろいさうらうらう現ともおぼしきもいづれもなれど
世の中はしんかたしんかたのあはれはなれぬもあはれうら
ゆたうとておぼしき山よきいさぎにむらゝかゝるるまゝの
あゝまのなれはなれぬもあはれはなれぬもあはれうら
まゝのまゝのいさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ
いはくまゝのいさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ
よのちのいさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ
世の中はしんかたしんかたのあはれはなれぬもあはれうら
みよゝまのいさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ
よまゝのいさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ
いさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ
あゝまのいさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ

これら
みこ
あまの
いさぎ
をせ
よん

世の中はしんかたしんかたはなれんはよしとて物にあはれいさうら

おぼしき山よきいさぎにむらゝかゝるるまゝの

よのちのいさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ

よん

おぼしき山よきいさぎにむらゝかゝるるまゝの

まゝのいさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ

えね

おぼしき山よきいさぎにむらゝかゝるるまゝの

いさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ

歌

よまゝのいさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ
まゝのいさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ
あゝまのいさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ

よん

いさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ

おぼしき山よきいさぎにむらゝかゝるるまゝの

あゝまのいさぎにむらゝかゝるるまゝのいさぎにむらゝ

た
むら

あし引の 山しこゑの あぶねく たまの月をちを
きれもちも あひくさくいん をよ出の 人志をねびみ
まをぞ免の ゆたふまきい 年よりにて おをれくしや
まげきけり せんまぶまきよ まをまいぞ 五やまをくを
まろたへの 衣の袖身 かく露の けあはけねべく
思ふぢも あをたらうれぬ まるゝ 妻 よそまも人小
あをれとぢりた

こゝろ歌たてまはたし時あつらふのたのたがうと

ちをやぶる 神のこよし王 くら弁の せくよまたえは
あまむとの けつをの山の まき 妻 思ひみくせそ
まみくせの そらととらよ さよふて やま介くまひ
たごごに たまもねがめて からみしき 志河たの山の
りみぢをを 見たのこ志のぶ 作ふ有 志をましく
たのよれ 志をまぶれお ちる雪は ねまをく人

はが
あま

とちとふ とはははつし あをれてふ ちをよむつ
君とのみ ちよまといちふ 母の人の 思ひまらかの
姉の後の まゆる思ひも あらうて けらるゝあご
ふぢこちも おまけるんを やちくさの あらのまごに
まぶまきの ねせうしとま おまひけ 中よけくはと
いせうこの 海の志不けひ 思ひあつめ かねとままを
たまのまお ちかまこら 思ひあひ ち不あつたまの
ちとてく 大にやまのま 久うこけ ちらよるはけ
けりやをえ かいまもせぬ こそやとの 志のぶまわら
いたまあら ちるまおの ちまや志ぬらむ

ふるうしこみまをたてすけまらふがうと

えま作の よまはふること ちりきをえ いらやめぬま
いらしを おりあんを のをすし あをれむうし
あままてふ 人すまらこらに うけりま 身ハ志もふがう

た琴

さびしきるる歌

七條店うせぬひまなる後よよみきき屋

おきほかみ お料のこもさる ことやのちり 逢へてささし
いせのあまも ふねたぶらうしき ちちしを ようむうこぬく
かぬきた あまごのものを くれおのり くれうがふるの
志ふねを 林のゆみぢと 知りぐを おめがちりく
こら進を たのむかだなく ちりをさく とまるものとい
まよきき 君あきさ庭ふ むれもて そらさすねる
ちつりまね ちきりりつ よそよこをらんち

伴物

雑歌

歌一七

お後れをちりくこら物まひくれぬとこはちりくさる何のまども

う屋一

まき針のまかぬれぬあぬむまひほまたたのるまむのちれや

よま

歌一七

さめせはさる川がよおのりはは枝をて又おひんさこりてはる枝
まかすきと川のゆめむちたのり神か月まぬれのおれをむまきり

はま

雑歌

歌一七

梅のまのなこをまほさうぶひまのゆきしとひもさる
ゆきのまのいろぬやなきとどくくびくちぬし
いくちの田とほくれぬうやまびま下の田とまをまきりよぶ
七月二日、たかをこのまらとよみらる

はま
そまの
ぬり

だいら一七

むつどろおまほきぬくにわけぬめいづら林のさうしと木根の
林のまあまあきたんをこぬしおぬりうはままをまき
おれぬれをまへまなまをこぬしおぬりうはままをまき

はま
魚
しん

歌一

梅のたねを死ての後のこゝろにまきかぶる死物とのみ人のいひをせ

法皇の御まはちうはしたる日。後山のうひ

さるぶといふことと歌まよふませおひたる

まがいらまよふらかまを足門の山のうひあるらまよのあらぬ

歌一

世といひ木のこゝろにまよふてうはすまはれあまのまねく

大歌所傳歌

かほを不びのうい

あまのこゝろをまよふかづこをまよふまよふかひてたのまよつめ

後日 本記木のうはすまよふまよふまよふまよふまよふまよ

ふるまよふまよひのうい

まよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよ

あまのこゝろ

とてはりあきたちとてはりあきたちとてはりあきたちとてはりあきたち

とてはりあきたち

とてはりあきたちとてはりあきたちとてはりあきたちとてはりあきたち

とてはりあきたち

とてはりあきたちとてはりあきたちとてはりあきたちとてはりあきたち

とてはりあきたち

とてはりあきたちとてはりあきたちとてはりあきたちとてはりあきたち

とてはりあきたち

とてはりあきたちとてはりあきたちとてはりあきたちとてはりあきたち

とてはりあきたち

とてはりあきたちとてはりあきたちとてはりあきたちとてはりあきたち

とてはりあきたち

とてはりあきたちとてはりあきたちとてはりあきたちとてはりあきたち

とてはりあきたち

さこのくまひのくまはは約とめて志がくちかげせだまこん
うつゝのうらうら

ま柳とくいとまよりて雲のぬあてふりさうめれこまがき
まがみふくまむの中山むびませるるを谷海のかよさやけさ

おのちの、承和の庄のまびのくまは、あ
こまはちやんめはさう山さしりみひが名いたてど、美代をみ

おれに、おのちの庄の、こまはちのくまの、あ
みのませまの、あゆたえすまて、そまつくむまらびよまをみ

こまに、えそまの庄の、このうらうら
君が代に、さうりもおじかがたまのま、砂の枝のみは、くは、ま

おまも、仁和の庄の、いせのくまのうらうら
あつゝのやが、この山をたてた、まびらうら、まて、ど、ち、ち、君が、み、海、の

東歌

く
ぬ

みちのくうら

あぶくまよま務ましくヨシありわけぬとて、志をばやしすて、いま、ま、は、し

こち、ち、く、い、つ、く、を、あ、れ、ど、ま、ら、が、ま、の、満、こ、ど、み、の、つ、み、で、う、れ、い、

こ、ら、せ、こ、を、あ、ま、や、り、て、極、が、お、の、ま、が、た、の、ま、の、ま、は、だ、こ、の、し、ま、

と、ら、ら、ざ、た、こ、つ、の、こ、ど、ま、の、く、た、ま、を、ま、や、こ、の、は、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、

こ、ま、が、う、ひ、う、ら、う、さ、ま、ま、う、せ、ま、や、ま、の、こ、の、下、ま、い、お、ま、ま、ま、ま、ま、

お、ま、い、お、れ、い、く、ま、い、お、ま、い、あ、び、ま、の、月、を、う、ら、ま、
君、を、お、ま、い、あ、び、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、
さ、が、み、う、ら、う、ら
お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、
お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、
は、く、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、
つ、く、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、お、ま、い、
か、ひ、う、ら、う、ら

いさよのこふあふさう山の志のまよまほまら出むもまほけりるうね

卷第十

こひいふまよまほまら出むもまほけりるうね

いねがものこのはかりいさやほいよまよまらあひりるはま

けあ、あふん、おあひりるこの、あふこのうねまほけりる

返

やすねのむともの流のなまよまら人のまらぐくつうこひめやも

卷第十

あひふてふこのものをや林をへて下

そとふつをむめの、おまらて、こらとこまひたてまつりて

こらせこらんまよまらまほまらあひりるまほまらあひりるまほ

はまら又、まよまらまらあひりるまほまらあひりるまほ

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

つら

古今倭歌集序

紀叔望

夫倭歌者託其根於心地發其花於詞林者也人之在世不能無為思慮易遷哀樂相變感生於志詠形於言是以逸者其聲樂怨者其吟悲可以述懷可以發憤動天地感鬼神化人倫和夫婦莫宜於倭歌倭歌有六義一曰風二曰賦三曰比四曰興五曰雅六曰頌若夫春鶯之轉花中秋蟬之吟樹上雖無曲折各發歌謠物皆有之自然之理也然而神世七代時質人淳情欲無分倭歌未作逮于素盞鳴尊到出雲國始有三十一字之詠今反歌之作也其後雖天神之孫海童之女莫不以倭歌通情者也爰及入代此風大起長歌短歌旋頭混本之類雜體非一源流漸繁譬猶拂雲之樹生自寸苗之煙浮天之波起於一滴之露至如難波津之什獻天皇高緒川之篇報太子或事關神異或興入幽玄但見上古歌多存古質之語未為耳目之翫徒為教誡之端古之天子每良辰美景詔侍臣預宴筵者獻倭歌君臣之情由斯可見賢愚之性於

文粹無下悲
哉二字

是相分所以隨民之欲擇士之才也自太津皇子之初作詩賦詞人才子慕風繼塵移彼漢家之字化我日域之俗民業一改倭歌漸衰然猶有先師柿本大夫者高振神妙之思獨步古今之間有山邊赤人者並倭歌仙也其餘業倭歌者綿綿不絕及彼時變澆漓人貴奢淫浮詞雲興艷流泉涌其實皆落其花孤榮至有好色之家以此為花鳥之使乞食之客以此為活計之媒故半為婦人之右難進大夫之前近代存古風者絕二三人而已然長短不同論以可辨花山僧正尤得歌體然其詞花而少實如圖畫好女徒動人情在原中將之歌其情有餘其詞不足如菱花雖少彩色而有薰香文琳巧詠物然其體近俗如賈人之著鮮衣宇治山僧喜撰其詞華麗而首尾停滯如望秋月遇曉雲小野小町之歌古衣通姬之流也然艷而無氣力如病婦之着花粉大友黑生之歌古猿丸大夫之姿也頗有逸興而體甚鄙如田夫之息花前也此外氏姓流聞者不可勝數其大底皆以艷為基不知歌之趣者也俗人爭事榮利不用詠倭歌悲哉悲哉雖貴兼相將富餘金錢而骨未腐於土中名先滅於世上適為後世

一本顯下有
伏惟二字

被知者唯倭歌之人而已何者語近入耳義憤神明也昔平城天子詔待臣令撰萬葉集自爾以來時歷十代數過百年其後倭歌棄不被採雖風流如野宰相雅情如在納言而皆以他才聞不以斯道顯

陛下御宇于今九載仁流秋津洲之外惠茂筑波山之陰淵變為瀨之聲寂寂閉口砂長為巖之頌洋洋滿耳思繼既絕之風欲興久廢之道爰詔太內記紀友則御書所預紀貫之前甲斐少目凡河內躬恒右衛門府生壬生忠岑等各獻家集并古來舊歌曰續萬葉集於是重有詔部類所奉之歌勒為二十卷名曰古今倭歌集臣等詞少春花之艷名竊秋夜之長況哉進恐時俗之嘲退慙才藝之拙適遇倭歌之中興以樂吾道之再昌嗟乎人元既沒倭歌不在斯哉于時延喜五年歲次乙丑四月十八日臣貫之等謹序

文粹哉作
乎

序の初くひよんを顯解乃由るひとら年とありひとら心
 あつてらすえねと人乃むこれひよんのをあらんよよ
 までこれる中々にひとらのと書てかゝるにひとら顯解と
 ありし傳りぬ
 集申のふも菅宗系集を佐朗録と稱のまゝ行ゆ
 敷多けしむのこくくハを以て此集と名此例とす
 一本の原しきをのてりてしにありし傳りぬ
 序此中を余乃不御存すと此のまをそへ書れらるは初と
 なる乃係に引きあはれ後の人の所係しおるれど
 是も今の本より略くくはるハ人これよみ未れりしに
 乃替りすしとてし傳りぬ
 序此中細字と名せ難ハ是又之を後所よりし
 したるおるれと右の係しを後所よりし傳りぬ
 序此中宛をこりゆとて乃初或況ハハ宛宛りやとて乃

延喜五年四月十八日出版
 明治十八年九月廿日反刻御届

奉勅 選者故人 紀 貫 之

校訂者故人 蚊 田 倉 生

原版主 大坂府平民 岡 田 茂 兵 衛

出版人 東京府平民 江 島 伊 兵 衛

日本橋區通四丁目十番地

